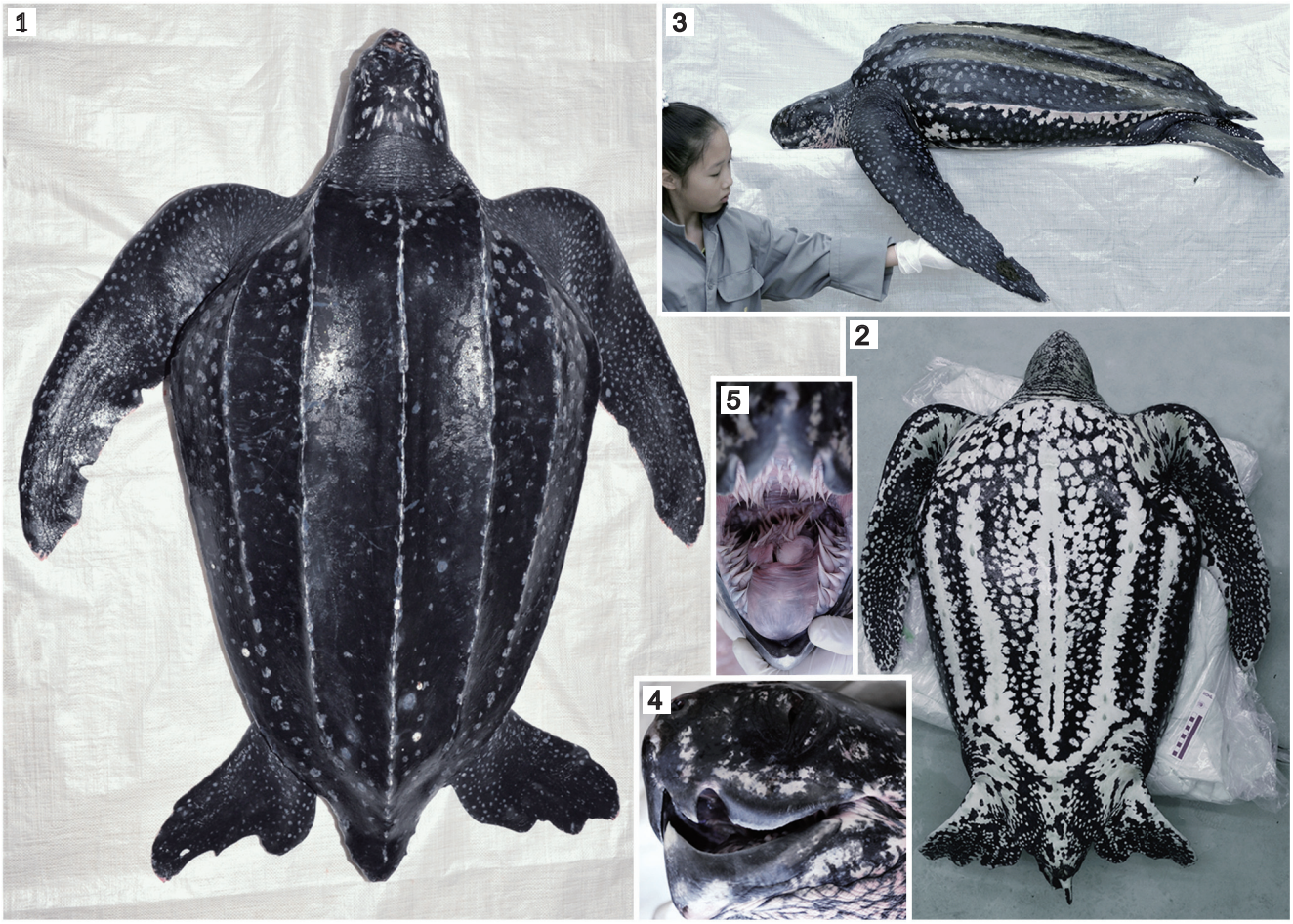
2011 年 6 月 15 日発行　年 4 回発行　通巻 65 号　ISSN 1341-545X

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 17, No. 2　　神奈川県立生命の星・地球博物館　　Jun., 2011



オサガメ

Dermochelys coriacea (Vandelli, 1761)

2010 年7月５日
神奈川県小田原市米神
KPM-NFR000021
甲長 98cm
瀬能　宏・樽　創　撮影

樽（たる）　創（はじめ）（学芸員）

1科1属1種のオサガメは、乱獲による個体数の減少から、レッドリスト（IA 類）に掲載されています。写真は 2010 年に小田原市米神（こめかみ）の定置網で混獲され、死亡した個体です。県内では、2008 年にも茅ヶ崎市と横須賀市で死亡個体の漂着が確認されています。

オサガメは現生カメ類では最大で、体長は 2m 以上にもなります。ウミガメの成体では唯一、鱗甲羅（うろここうら）を持たず、皮膚に覆われています。濃紺の皮膚の下は、ジグソーパズルのように組み合わさった骨が一枚の板を作っています。背甲には7本の稜があり（写真1）、白点模様があります。腹甲にはこの点がつながったような5本の明瞭な白線と稜があります（写真2）。遊泳力にたけた長い前肢を持ち（写真3）、独特の溝がある嘴（くちばし）で（写真4）、クラゲを好んで食べ、食道には角質のカバーがついた“棘（とげ）”を持ちます（写真5）。

日本では化石のオサガメ類も産出しています。白亜紀の地層（北海道、兵庫県、香川県）から化石種 *Mesodermochelys undulatus* Hirayama and Chitoku, 1996 が発見されていて、オサガメの進化を知る上で、日本は重要な化石産地と位置づけられています。